

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	小学部83人 中学部55人 高等部68人 計206人

1. 使用状況

寄贈物品名	巧技台 ワイド
使用学年及び人数	小学部1年生から6年生 83人
使用頻度	自立活動、遊びの指導、休み時間など毎日
使用状況	<p>1・2年生は、遊びの指導や体育の中で、巧技台の一部である滑り台や平均台、梯子等を使用した粗大遊びに活用しています。</p> <p>巧技台は持ち運べて、使用したい部分だけを設置できるので、3～6年生も、自立活動の粗大的な体づくり運動の中で、巧技台の一部を使用し、基本的な体の動きを習得しています。また、小学部の中に、巧技台を常設する部屋「のびのびルーム」を設置し、3～6年生の子どもたちが、休み時間や昼休みに、設置された巧技台で進んで体を動かしたり、友達を誘って遊んだりして活用しています。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>室内に巧技台ワイドセットを常設したことで、教師の付き添いの下、児童がいつでも使用できるようになり、自分たちで進んで体を動かしたり、友達とサーキットのように何度も繰り返したりする姿が増えました。梯子は上るだけでなく、またいだり、くぐってみたりと、子どもたちの自由な発想で、体を動かすことができます。また、梯子、平均台バー、跳箱台、斜面台、鉄棒などを自由に組み合わせて体を動かすことができ、必要な部分だけ持ち運べるので、のびのびルームだけでなく、様々な場所で使うことができました。子どもたちがいつでもどこでも気軽に体を動かすきっかけとなり、子どもたちの身体づくりに大変役立っています。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>室内に設置し、天候に関わらず、子どもたちが滑り台や梯子などで遊ぶことができるようになりました。遊びや自立活動の授業づくりの教具としても大変役立っています。</p> <p>今後も巧技台を日々の生活の中で学習や休み時間に活用していきます。小学部の児童が進んで身体を動かすだけでなく、段階的に自分で安全に気を付けながら活動できるよう、ステップや大杵、小杵など様々な教具を組み合わせて環境づくりをしていきたいと思ひます。</p>
その他希望や所感など	<p>寄贈いただきありがとうございました。巧技台を常設したのびのびルームは、子どもたちが自由に遊ぶ楽しみの場となっています。今後も子どもたちがよりダイナミックに体を動かすことができる教具を考え、子どもたちの身体能力の一層向上を目指して教育活動に励みたいと思ひます。</p>

2. 活用の様子

授業で活用 1年生遊びの指導
平均台を橋に見立てて遊ぶ活動



自立活動 のぼる、跳ぶなどの身体の動き



小学部に設置した「のびのびルーム」
梯子のぼり



平均台歩き



跳箱またぎ



休み時間の自由使用

